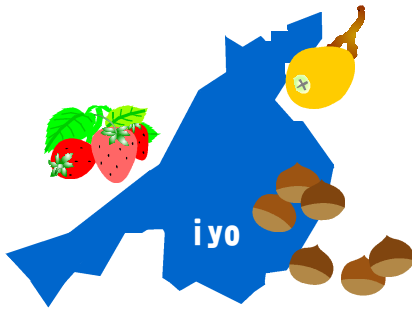




協働のまちづくりを実現する 市民討議会 NEWS

発行：令和4年11月 伊予市企画政策課 [伊予市米湊820番地 089-982-1111]

第6回伊予市市民討議会を開催しました！

9月25日(日)、ウェルピア伊予の会議室にて、「協働のまちづくりを実現する市民討議会」を開催しました。平成27年から始まった市民討議会は昨年は実施できなかったものの、今年で6回目となります。今回は無作為抽出により2,000名の市民の皆さんにご案内し、希望された44名の市民の皆さんと愛媛大学の学生さん11名、伊予農業高校と松山工業高校から生徒さん11名、若手職員3名の計69名で討議を進めました。

はじめに、市民討議会の目的と一昨年の市民討議会の成果について説明しました。次に写真を使い、『わたしにとっての伊予市の風景』をそれぞれ紹介し合い(p2~p7)、グループごとに「伊予市の風景」について考えました(p7~p11)。その後、午後にグループで検討していただくまちづくりテーマについて、若手職員から説明しました(p12~p13)。

午後は3つのテーマを分担して検討を進めました。まずは2回、席を替わりながら、まちづくりテーマを実現するためのアイデアを話し合い、付箋に書き残しました。休憩後は元のグループに戻り、残された付箋を整理しながら、2030年になりたい伊予市の未来の目標とアクションプランをまとめて、その内容を全体の場で発表していただきました(p14~p25)。午後からは市長がすべて参加し、最後にグループの提案内容について力強くコメントしました。

参加者の中に若い方が多く、問題提起してくれた職員も若手だということもあり、元気で活発な雰囲気の中、今回の熟議を進めることができたと思います。今後2030年に向け、伊予市の「なりたい未来」を実現する発火点になることを期待したいと思います。参加された皆さん是非、伊予市の市民討議会で経験したことを身近な人たちに拡散してください。よろしくお願いします。

＜市民討議会プログラム＞

1：はじめに

第1ラウンド

2：グループで自己紹介

3：これぞ『伊予市の風景』を選ぼう

4：『伊予市の風景』を全体で共有

5：若手職員より伊予市の未来について

第2ラウンド

6：なりたい未来を生み出すヒントを考える

第3ラウンド

7：具体的なアクションプランを提案

8：グループ発表

9：まとめ

6年前の総合計画に「3万人が住み続けられる伊予市」を目標に掲げました。国の推計で2040年には27,000人台、2060年には15,000人台になるという数字がありますが、3万人と掲げた以上は実現するよう職員一丸となって、市民の皆さんのお知恵も借りながらやっています。私も6年前から3万人をキープするための種をまいてきましたが、それが各地区でポツポツと芽吹いてきました。

関係人口、交流人口を増やしながら、若い方が伊予市で働き、結婚して子どもを生む、そういうこともしっかり見つめながら3万人を維持していきたいと思います。ご参加した皆さんから伊予市に対する新たな提言をいただき、それをしっかりと頭の中に入れながら、伊予市の未来をつないでいきたいと思っています。今日はよろしくお願いします。



[武智邦典市長]

自己紹介『わたしにとっての伊予市の風景』

テーブルに用意した伊予市の昔の写真と、皆さんが持ち寄られた写真の中から『これぞ わたしにとっての伊予市の風景』と思える写真を一枚選んで、その思いを自己紹介カードに書き、グループ内で紹介していただきました。

※自己紹介カードは原文のまま掲載しています

○ しおさい公園

17人



○小学校の頃によく親と行った。ほかの写真にあまり思い出がない。

○小学校の頃、ソフトボールをしていた時に。駅伝大会は参加。成人式。幼少からの伊予市のイメージが強い。イベントをするときはここ。

○幼い頃から今の歳まで、気兼ねなく行くことができ、良い遊びに行っていた記憶がある。昔も今も変わらず残っていて、伊予市として大きな印象がある。体育館ではスポーツの大会。盛り上がり見て楽しめる。

○小学校の頃からしおさい公園にはよく行っており、自分の中でとても身近な遊び場の1つで思い出があるのでこの風景を選びました。

○中学校の時に駅伝大会があって、部活のチームで優勝したから。次の年は3位入賞でした。たまに友達と体育館でバレーします。

○小学校の遠足などで行った思い出があります。伊予市民にとってなくてはならない場所だと思います。

○25年前、子育てに…砂浜であそび、子供たちと公園で野球をした。今、お年寄りとの時間に。介護の仕事をしている。遠くまでは行けないが、しおさい公園でゆっくりと光や風を感じる時間がおだやかでやさしい。五色浜。

○多くの親子が遊ぶことが出来る場所。独立リーグ等スポーツ観戦が出来る所。

○部活の練習試合でよく行ったことがあり、練習終わりに皆で公園に寄りそのまま遊ぶこともあり楽しかったから。遊具で遊んだり、芝生で遊んだりして子どもが遊ぶ場所としてとてもいいと思う。

○高校時代野球部に所属していました。練習試合や公式戦でしおさい球場へ行ったことが思い出されます。今でもそばを通ると、あの頃の記憶がよみがえります。

○中学時代の部活動。体育館で練習した思い出。高校の遠足でも。

○18枚の写真の中で1番なじみがあるからです。小さい頃、よくお母さんやお父さんがつれていってくれたり、4月ごろには花見をしたりしたからです。

○18枚の中ではよく知っている。

○松山に住んでおり、伊予市について分からないが、写真の中だと17番しか聞いたことがないため。

○私は松山市住みなのですが、たまに伊予市に遊びにくるときは必ずしおさい公園にきています。広々とした空間で海が近くにあることがすごく魅力的です！海を見るのが好きな私にとって、海を見るためのベンチがあったり、ゆっくりできる公園がある伊予市はいいなあとと思います。松山にはない場所で、私の家の近くにもできたら毎日通ってしまおうと思うほどです笑。

○東温市に住んでいる私が伊予市に通うようになって一番足を運んだ場所です。伊予市といえばしおさい公園というイメージがあります。年齢関係なく利用できるのも、普段関わることのない方とお話する機会ができるのが良い所だと思います。

○私自身、松山市の出身で伊予市に住んだことはありませんが、幼少期から新体操をしていて、その練習を伊予市で行っていました。しおさい公園はよく練習時に体育館を使っており、思い出のある場所です。練習後、みんなで公園に行き、よく遊んでいたのを憶えています。

○ 恋人岬

9人



○私の小さい頃の遊び場はシーサイド公園でした。小学校からも見える風景でしたし、日常の中に溶け込んでいる存在です。伊予市と言えば、私が一番に浮かぶ情景がこの写真です。

○大学進学と共に愛媛に来て、プロジェクトで伊予市と関わっていく中で、この地も知ったから。写真の中では唯一知っている、夏に来たいと思う場所だと思うため。夏に来た時はこの位置から見える夕焼けがとてもきれいだった。

○友人から、恋人岬に彼女と行ったというエピソードを聞き、自分も恋人ができたら行こうと決意したため。またその時の写真を見て感動し、実際に行ってみたいと思ったため。

○恋人岬のモニュメント自体には思い入れはないのですが、シーサイド公園には子供が夏休みになるとよく海水浴に行っていました。今はリニューアルをしてオシャレな感じになってますが、私にとってのシーサイド公園はイカ焼きの香りが漂っているのが思い出されます。

○高速ができるまで、南予方面に行く休憩場所といえば「シーサイドふたみ」「中山クラフトの里」でした。子ども達をつれて遊びに行くことも多い場所です。

○私は松山市に住んでいるので伊予市民ではないのですが、私から見て伊予市と言えば恋人岬です。選んだ理由は双海の海を何度も見に来たことがあって、とてもきれいだし、ぱっと思いつくのはここだからです。

○伊予市といえば「夕日」「海」「山」、この3つがそろった場所がここだと思います。夕日はどの場所から見てもきれいに見えるのが伊予市の魅力の1つですが、海に沈む夕日は格別です。

○車で伊予市に伺った際、最初に目を引く恋人岬。自然と人が集まるモニュメント。夕日の輝きが何ともいえない懐かしさや温かさを教えてくれているよう。

○ふたみシーサイド公園の設計者が、当時勤めていた会社の社長だったので。

○ 彩浜館

5人



○私の住んでいる所に近いという事もありますが、五色姫や住吉祭（伊予彩まつり）等の複数の行事で多くの人が集まる場所だからです。他にも海水浴場が近かったり、静かな海辺にたたずむと心が穏やかになります。のんびり過ごしたい方向けです。

○彩浜館は伊予市を代表する歴史的建築物である。30年位前に建て替えられたもので、敷地のかたわらにうずまき状の井戸の様なものがある。潮の満ち引きを測定するための物だったそうだ。また港のきわにある灯台が好きだ。

○結婚生活の出発点であり、様々な行事、たとえば住吉祭とか展示会とか、折につけて利用してきたところです。近くに五色浜公園、グラウンド、灯台等有。子供の遊びにも最高です。今現在の活用を期待します。

○生まれと育ちが伊予市であり、自宅から五色浜が近かったこともあり、徒歩や自転車でよく行きました。高校卒業後はしばらく伊予市を離れておりましたが、転勤で戻って来て以来、子供たちを連れて遊びに行くようになりました。常に五色浜の入口にあるのが彩浜館でした。

○豊かな海と共に暮らす伊予市民にとって、海と生活をつなぐ港の存在は大きいものであろうから。

○ 夕焼けプラットホームコンサート

4人



○県外出身者の私としては、伊予市のことを知ったきっかけが下灘駅でしたので、そこに関連したイベントである夕焼けプラットホームコンサートを選ばせていただきました。

○友人と初めて行った伊予市の観光地。夕日が見たかったが、時期の都合もあり見れなかったのが残念。いつかきれいな夕日を見てみたい。

○夕焼けプラットホームコンサートには参加したことはありませんが、下灘駅の海に近い絶景は昔からきれいですてきだと思ってました。自宅の近くの写真がないので、又、何度も行った

ことがないので、本当に昔JRに乗った思い出です。

○私は鉄道マニア。下灘駅の夕日は有名になるまで知りませんでした。昔住んでいたのに残念な気持ちでした。灯台もと暗し、数回季節をかえて行きましたがいいところで、改めて見直しました。今から考えると、昔に行っておきたかったと思い後悔しています。印象が強い写真です。

○ 翠小学校（県内最古の木造校舎）

4人



○自分も小中学校時代は木造校舎で学び、なつかしい思いがある。なお日本最古の木造校舎ということで、伊予市にしかない風景で希少価値がある。

○外観があかぬけていて、近代の建物といっても違和感がない。又、日本は木を大切にしたい。

○地域のシンボル、心のより処としての小学校。開校150年をむかえようとしています。現在は児童数19名（校区外者も含む）ですが、通って良かったと思える学校にしたい。

○結婚して伊予市に住むようになり長女が生まれた頃に、友達の紹介で伊予保健所の仕事を手伝うことになった時に行った思い出の小学校です。私自身が小学校の時も木造校舎だったので、とてもなつかしく温かい気持ちになったのを憶えています。

○ 中山特産品センター（昭和62年3月）

4人



○念願の鉄道開通により地域の活性化が図れることを期待できるため。

○いろいろな名産品が手頃な値段で購入できるのが良いと思います。地域の物もあっていいと思います。

○私は他県から移住してまいりました。伊予市に来て感動したところは、食材の豊かさだったり自然あふれる風景でした。特に産直が充実しており、季節の移り変わりを伊予市の食材から教えてもらっていると日々感じています。子育て世代として、子供を育てやすい環境になればと願っています。

○コメントなし

◇ 森の海岸



場所は森の海岸。遠くに双海地区を臨むことが出来る。自分のふるさとを地形レベルで感じれる場所。空、海、陸地が全て見れるとても気持ちのよい場所。

○ 下灘駅の乗降風景（昭和40年頃）

3人



○伊予市といえば下灘駅。
乗降風景を私はあまり知ら

ないが、県外の友人も観光で行ったことがあるとよく聞くほどである。そんな下灘地域で今私はシニアの方への健康教室を去年から大学のプロジェクトで行っています。県外（兵庫）出身で伊予市には在住していな

い私から見た「伊予市といえば」の風景は下灘駅です。
○今年4月に愛媛県に来て伊予市に訪れたことがほとんどないのですが、今年の夏、初めて下灘駅に来た際、伊予市に足を踏み入れました。
○親友と夕日を見に行った。

○ 予讃線海岸周りを走るSL列車

3人



○高校及び勤め先をSLで通っていました。その頃は列

車の席に座る事が出来ず、デッキに立っていると白いワイシャツが黒くすすまみれになったり、又、外の景色と自分が連動して爽快な気持ちになった事を今でも鮮明に思い出します。

○家の近くで止めた！

○SL列車で通学。石炭のにおいがとても心地良かった。家の風呂は薪でたいていて、香りが心に残っている。かつては田舎も良いものだと思っていたし、今も思っている。当時は山の上まで耕されていた。

○ 土曜夜市初開催（昭和58年）

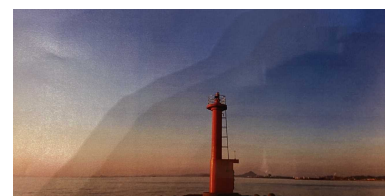
2人



○小学生、中学生の時の大人のイベントの一つ。六月の第1、第2、第3土曜日に開催され、子供のときは雨が降らないかドキドキしていたのを覚えている。

○小学生の頃、この土曜夜市によく参加していました。カラオケ大会で友人たちと歌ったことをよく覚えています。また祭りの終盤では、参加者全員でちょうちんを持って夜の伊予市を少し歩き回ることもあり、個人的に思い出深い行事です。

◇夕暮れの海岸



以前、思い立って何も考えず気の向くままに歩き回ってみた時の終着点を、携帯電話で撮ったもの。夕暮れと赤と海が印象深かった。

◇えひめ森林公園



大谷池～えひめ森林公園。樹木の花、季節により（花物語、野鳥等）。

◇唐川



父の故郷、唐川。

◇散歩コース



スローライフを満喫できる。朝や夕方の私の散歩コース。20年以上前の息抜きの場。

○ 亥の子 (中山町 昭和61年)

2人



○時代が違うので何とも言えないが、昔の風習がなくなりつつありさみしい。人口減にともない、風習が継承されていない。それは自分達の責任でもある。

る。伊予市は海のきれいな町なので、海に関する事を復活させたい。

○亥の子にかぎらず、子供たちを大切にすることは伊予市や日本の未来にとっての最重要事項です。宝である子供なくして地方自治や国の発展はありません。今後もさらに子供を大切にしていける伊予市であってほしい。

○ 全国豊かな海づくり大会開催 (平成5年)

2人



○私の長男が郡中小の金管バンドに入っていて、全国豊かな海づくり大会にチューバで参加しました。その時、水色のユニフォーム(?)も新調され、その当時の模様がなつかし

く思い出されました。又、ちょうどその年の10月に三男も誕生し、我が家での嬉しい年、記念すべき年、思い出深い年となりました。その後、兄弟全員金管バンドに入り、ユーフォニウム、トランペットと楽器は違いましたが、楽しめた事に感謝しています。

○漁業を始めて10年すぎかな。

◇ため池



伊予市の水瓶として農村風景を持続していく為にかかせない存在。森林公園など、自然とふれあう、かけがえのない場所。できれば砥部の通谷池とのつながりから水面利用などのレクリエーションの場ができるとよい。子どもの城にあるようなボートやジップラインなどは？

◇谷上山からの眺め



私の子供の頃の思い出は、遠足等でいった谷上山からの風景で、伊予市の市街地や伊予灘の眺めです。みかんが実る山間からの景色が記憶に残っている。もう50年近く、半世紀前の風景かと思いますが、自然に恵まれた美しい伊予市の田園風景であったと思います。しかし最近では、谷上山の展望台もさびれ、訪れる方も少なくなりさびしい思いがしております。少子高齢化の影響でしょうか。

◇五色浜



五色浜のいもたき会場。外でそれぞれのお仲間の方との会食中。他のグループで知った方と会ったり。今が最中なので楽しいひとときを…おすすめます。

◇グラウンドで遊ぶわが子



はじめて子供が外遊びした時の写真で、広いグラウンドで元気に走りまわり、木の枝をふりまわしたりして楽しそうにしていた。まわりの家族も広々としたスペースで思い思いに楽しんでいた。



◇観光列車



2022年6月26日、伊予市立北山崎小学校と国道56号線の間の踏切。JR四国観光列車伊予灘ものがたり。2022年4月から2代目の3両が運行。県外からも撮り鉄が来ます。私も撮り鉄。



◇下灘の水仙畑



1月頃のまだ寒い季節でしたが、下灘にある水仙を見に行きました。新しい年の最初に咲く花なので、天気の良い日を選んで家内と一緒に出かけました。少し急斜面で登るのが大変でしたが、水仙畑から見る景色は、伊予市の山と海の自然が見られて良いと思いました。

◇家までの帰り道



仕事から帰った時、旅行、遠出から帰ってきた時、この辺りの通り道を通ると帰ってきたなあという実感がわいてきて心があたたまりますし、落ち込んでいても元気になれます。この写真、この風景は極めて個人的なものです。皆さんの中にもこの通り、この場所まで来ると帰ってきた感じがして心がやすらぐという場所がきっとあると思うので、各々のイメージを思い浮かべていただければと思います。

これぞ『伊予市の風景』を選んでみよう！

皆さんが選んだ写真の中から、3項目それぞれのベスト1をグループで選んでいただきました。その写真を選んだ理由も書いていただきました。
※選んだ理由は原文のまま掲載しています



「これぞ 伊予市の コミュニティの風景」

「しおさい公園」



<5グループ>

- ・小さい頃、よく遊びに行った。
- ・桜がきれい。
- ・部活。
- ・幼い頃の幸福と苦痛。

<2グループ>

- ・伊予市で子ども達と一緒にボール遊びなど、身体を使って遊べる場所。天気の良い休日は親子連れでにぎわっている。
- ・季節や年齢に関係なく、いつもにぎわっている。

<6グループ>

- ・大きなイベントはここ!!みんなが集い、交流する場所。
- ・成人式がしおさい公園で開催されている。
- ・大体のイベントが来る。
- ・みんなが集まる場所。
- ・運動。サッカー、野球、テニス、卓球、グラウンドテニス、ホッケー、バスケ、バレー、なんでもできる。
- ・子供から大人までが集う場。変わらない風景。
- ・多くの人々が訪れ、自分もよく行って印象深い。

「市民運動会」



<1グループ>

- ・子供の頃はよく行っていた。
- ・色んな地域の人が集まって会話が生まれた。
- ・同じ地域の人でチームになるから、交流の場としてよかった。
- ・今はコロナの関係や参加地域が少なくなり悲しい。

<8グループ>

- ・普段、会えない方とお会いできたり、幅広い世代の方が集まる。
- ・体を動かして協力することで新しい方との出会いの場、交流の場となっている。

「土曜夜市初開催」



<3グループ>

- ・たくさんの世代が集まる。
- ・今も続いている。

<9グループ>

- ・獅子舞（同級生が出てた）
- ・親に数百円もらって毎週参加。
- ・夜市で何人かの友達と会った。

「恋人岬」



<4グループ>

- ・他市、県外の人が集う場。
- ・観光スポットとして多くの人が行き交う。

<7グループ>

- ・近年の伊予市をイメージさせる風景。
- ・観光資源のひとつでもあり、市内外から人を集めている。
- ・幅広い世代に支持されている風景と考え選択。

「亥の子」



<10グループ>

- ・子供が集まる行事で、子どもをきっかけに大人の人たちも集まるので、コミュニティの写真にふさわしい。
- ・今は伝統行事というものが少なくなっているのですが、たくさんの方が集まるきっかけになってほしいと思った。





「これぞ 伊予市の 幸せな暮らしの風景」

「下灘上浜商店街」



<3グループ>

- ・伊予市の日常生活の姿がそのまま表れている。ふるさとの温もりを感じられ、幸せな暮らしというテーマに合うと思った。
- ・地域の温かさ。

<10グループ>

- ・当時の暮らしぶりがうかがえる日常の風景。
- ・人口の減少等で各地の商店街は衰退の一途をたどるが、なつかしさともう一度という願いを込めて選びました。

「土曜夜市初開催」



<5グループ>

- ・友達とわいわいしゃべりながらまわった。
- ・子供心にウキウキする、幸福感を感じる。
- ・コロナ禍で無くなってしまっている→開催できた時、皆さんと幸せを共有できるのでは。
- ・夏の風物詩

<8グループ>

- ・昔から賑わっていて、今の私たちも行くぐらい獅子舞やたくさんの屋台があり賑わっているので、幸せな風景だと思い選んだ。

「亥の子」



<6グループ>

- ・子供のお小遣いになっていた。にぎやかなイベントだった。
- ・子どもの頃の強い印象。共同作業によるみんなの集い。
- ・幼い頃の風景、なつかしい。今は子供が少なくなっている。
- ・今もしている地域もあって伝承されてて見てて温かい。
- ・自分の地域では石にくさりをつけて地面をたたいていた。無病息災、田畑を荒らす害獣駆除。
- ・子供が大人になってもなつかしめる思い出。

<7グループ>

- ・子供がたくさんだと地域が活性化します。幸せな暮らしを今後も進めていくためには、国や市、地域にとっての宝である子供を大切に育てていく必要があります。

<1グループ>

- ・何かの目的で近所の人々が気軽に一つの家に集まれるという、人と人との距離の近さが現代では失われつつある。幸せな暮らしの風景の一つであると感じました。

「レコードを聞く人々」



「予讃線海岸周りを走る SL列車」



<2グループ>

- ・山の上まで手入れされた下灘地区を走るSL。
- ・山の上の土地は今は水仙畑があるが、それ以外は耕作放棄地になっており、こんなにきれいではない。
- ・かつては半農半漁で精一杯生きていたという懐かしさをこめて、こんな暮らしの方が今の地球温暖化等の時代にいいのではないかと選んだ。

<4グループ>

- ・家族の交流の場。
- ・赤ん坊からお年寄りまでが触れ合える。
- ・イベントとしてはえひめ国体バレーボール、成人式の会場、野球などのスポーツ。伊予市総合公園。

「しおさい公園」



「彩浜館」



<9グループ>

- ・結婚式の会場。イベントでよく利用してきた。
- ・建物にも風情があり、もっと気軽に利用できるようにしてもっと活用できれば良いと思う。
- ・今後の活用を期待する。お茶会等。



「これぞ 伊予市の ○○の風景」

現在の風景 「夕焼けプラットホーム コンサート」



<1グループ>

駅でコンサートをするというのは他にはない新しい取り組みで、若い世代の方にとっても高齢の方にとっても、魅力あるものだったから。

なつかしの風景 「亥の子」



<2グループ>

- ・地域のこどもで集まってやる11月の恒例行事。
- ・学校から帰った後にやって、祭りの後では鯛めしやお寿司など豪華な食事をした楽しい思い出。

思い出の風景 「翠小学校」



<3グループ>

- ・各世代がかかわる。
- ・地域の誇り。
- ・地域全体で守っていく。
- ・地位のシンボル、心のよりどころ。
- ・昔も今もこれからも、人の心に残る。

観光列車の風景 「伊予灘ものがたり」



<4グループ>

- ・伊予市立北山崎小学校の隣にある踏切から撮影。
- ・観光列車伊予灘ものがたりは、乗車客は関東、関西、地元愛媛県が3分の1ずつ。
- ・県外からも撮影に来ます。

美しい風景 「谷上山からの眺め」



<5グループ>

- ・子供の頃に行った遠足でながめた谷上山からの風景。
- ・みかん越しに見えた市街地と伊予灘。

自慢できる風景 「翠小学校」



<6グループ>

- ・木造校舎で有名。現在も少人数ではあるけど存続している。
- ・全国的に有名。
- ・テレビCMにも（R-1）。テレビで紹介されている。
- ・在校生こそ少ないが、現在も残っていて勉強のできる子が多かった。
- ・地域の方々が協力しながら守っている。
- ・となりの川に、ホテルがいっぱいいる!! 6月。

知られざる歴史的風景 「彩浜館」



<7グループ>

- ・伊予市を代表する歴史的建築物。
- ・旧灯台を含め、伊予市の代表的なシンボルだと思います。今後の活用法に期待します。

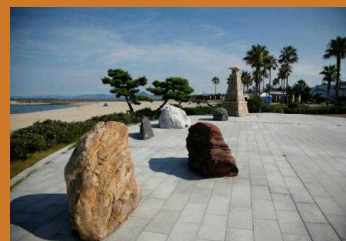
古き良き風景 「下灘駅の乗降風景」



<8グループ>

- ・この頃、通勤、通学で列車を利用して松山に行っていたが、その乗り降りの風景がとてもにぎわい、今では考えられないほど。
- ・夕方、海岸線をライトをつけて走る列車を下から見上げる風景もとてもいい。
- ・こういう風景に少しでも戻ったらいいと思い選んだ。

こころの風景 「五色浜」



<10グループ>

- ・伊予市と言えば五色浜。
- ・遠足や海水浴、花火大会等で子供の頃より市民のそばにいつもあたり前にあった場所。

伊予彩まつりの風景 「伊予彩まつり」



<9グループ>

- ・花火が間近で見られてとてもきれい。
- ・花火が子供の頃の夏休みの楽しみ。
- ・太鼓
- ・結構な数の花火が打ち上がる。毎年たくさんの方が来る。屋台が出る。
- ・お化け屋敷



若手職員より伊予市の未来についてのお話

現在、庁内では若手職員が2030年に向けて、「伊予市のなりたい未来」を検討しています。市民の皆さんと一緒に実現していきたいまちづくりテーマと課題について、3つのチームからお話しました。

第1テーマ『誰一人取り残さない伊予市のコミュニティ』

■SDGs^{*1}推進プロジェクトについて

- ・SDGsの達成に向けた取り組みを、総合的かつ効果的に推進するために設置された。
- ・男性5名、女性5名の計10名で活動している。

■伊予市の課題

- ・人口の減少、少子高齢化、空き家の増加
- ・都心部と山間部の間での情報格差
- ・地域のコミュニティの減少
- ・子どもが遊べる場所が少ない
- ・地域によって交通手段の選択肢が少ない
⇒休日窓口や延長窓口の開設等、対応はしているが、市民の声すべてを拾えているわけではなく、課題は残っている。

■プロジェクトチームが考える理想の伊予市

- ・子育てしやすい
- ・健康寿命が長い
- ・いつでも相談できる
- ・笑顔があふれる
- ・共働きしやすい
- ・ワーケーション
- ・農地を整備し公園にする
- ・スポーツジムをつくる
- ・リモート診療など

■市民との協働が重要

- ・暮らす人、遊びに来る人を守ることがSDGs。
- ・まちづくりはその地域に暮らす人がいてこそ成り立つもので、それぞれの地域ごとに違う課題と理想がある。本日は地域の課題と、各地から集まった皆さんの理想の伊予市を伺いたい。

*1 SDGs：2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っている。

第2テーマ『人に自慢したくなる伊予市の姿』

■いよし魅力発信プロジェクトについて

- ・より魅力的に伊予市を発信していく方法を考えていくプロジェクト。
- ・伊予市の公式アカウント、Facebook, Twitter, YouTube, LINE, Instagramを使った発信。

■取り組み

- ・SNS^{*2}の特性を生かした発信をするため、目的、ターゲット層、目標を定め、SNSごとに色付けをすることとした。

①LINE

- ・ターゲットを伊予市民全体にし、安心して暮らせるまち情報を中心に発信する。6つのボタンを用意し、情報をわかりやすく見ることができるようになっている。

②Instagram

- ・このプロジェクトの要。
- ・「#^{*3}ますますいよし」を使って目指せ1万投稿を目標に掲げた。今現在、3,730件。
- ・9/20の空の日になぞらえて、伊予市の空を投稿してもらおうイベントを開催し、270件の投稿があった。次回は鉄道の日、10/14にあわせて同様の企画を予定。

■最終的な目標

- ・伊予市の魅力を発信することにより、多くの方に伊予市のファンになってもらい、伊予市が掲げる3万人が住み続けられるまちを目指していきたい。

*2 SNS：Social networking serviceの略。Web上で社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築可能にするサービスである。

*3 #：ハッシュタグ。SNSの投稿に対する“タグ”として利用され、後に特定のキーワードを付与することで投稿がタグ化される。タグ化されることによって同じキーワードでの投稿を検索できる。

第3テーマ『デジタル時代の伊予市の暮らし』

■伊予市の課題

- ・人口減少、少子高齢化、中山間部の過疎化、空き家の増加
- ・農業の担い手不足、農業用施設の維持管理・補修・更新
- ・都心部と中山間部の教育格差・情報格差
- ・遠くなった役所までの距離
- ・複雑な行政手続き・個別の窓口
- ・行政の厳しい財政状況、職員数の削減、業務量の増加、複雑な事務等々・・・

■解決手段の一つのDX

- ・デジタルトランスフォーメーションの略語。
- ・企業や行政がAI(人工知能)やIoT(ネットとモノをつなぐこと)、ビッグデータ(様々な種類や形式のデータ群)等のデジタル技術を用いて、人々の生活をより良いものへ変革していくこと。

■具体的な事例

- ①東京都江戸川区の事例(人口 69.6万人)
 - ・アプリを活用し、町会・自治会等と地域のボランティアをマッチングする。
 - ・町会・自治会等の困りごとを登録すると、ボランティアに情報が届き、活動に参加できる仕組み。地域の担い手不足に役立つ。
- ②長野県伊那市の事例(人口 6.7万人)
 - ・地元スーパーの商品をドローンで配達する「ゆうあいマーケット」を展開。利用料は月1,000円。利用者はケーブルテレビのリモコンで商品を注文し、購入代金はケーブルテレビの利用料金に加算されて引き落とし。
 - ・商品はドローンで公民館に届けられ、集落支援員等が利用者へ手渡す。安否確認や見守りも同時に行う工夫がされている。

■今後の取り組み

- ・これからは、自分たちの町を自分たちの手で変えていくという意識を持ち行動することが求められる。DXを活用してどのような伊予市をつくっていきたいのか、ぜひ一緒に、皆さんと理想の伊予市を考えていきたい。

これからの『伊予市のなりたい未来プロジェクト』 実現のための具体的なアクションプラン

3つのまちづくりテーマについて分担して検討を進めました。まずは全員で席を替わりながらまちづくりテーマを実現するためのアイデアを付箋に書いて貼っていききました。その後、検討グループに戻り、残された付箋の内容を見ながら、具体的なアクションプランにまとめていただきました。

※付箋のコメントは原文のまま掲載しています

作業 手順

1. グループ分けとテーマ分け

- ① くじ引きで午後のグループを再編成し、検討テーマを分担

2. ワールドカフェ方式で話し合い

- ① グループで、まちづくりテーマを実現するためのアイデアを付箋に書き出す
- ② テーブルを移動し、そのテーブルのまちづくりテーマについて、アイデアを付箋に書き出す(席を2回移動)

3. 元のグループに戻り、アクションプランを検討

- ① まちづくりテーマを実現するイメージ写真3枚を選ぶ
- ② 残された付箋を参考にして、なりたい未来を実現するための具体的な提案を話し合い付箋に書き出し整理する
- ③ 「2030年になりたい伊予市の未来」を考え、目標を設定する
- ④ 全体場で発表する



5 グループ



今残っている伊予市の風景や現状あるものをリメイク、再び作り直していい伊予市になっていたらいいと話しました。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標> リメイク ●

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・生涯ボランティア。誰かの役に立つ人生を!!
- ・核家族からおじいちゃん、おばあちゃんとの暮らしに戻る。
- ・人とのつながりない
⇒アプリの必要。
- ・誰かとつながっていたい。



わたしのコミュニティで取り組めること

- ・シェアハウス化の検討。
- ・空き家
- ・放置竹林問題。
- ・農業の法人化。放棄地を減らす。
- ・町内会を行う。
- ・スマホ教室

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・大型商店街を作る。
- ・大型ショッピングモール
- ・コンパクトなスーパーがいい。
- ・防災放送が聞きづらい。
- ・防災無線を一家に一台。
- ・テレビがスマホに。
- ・大型ゴミの回収に時間がかかる。
- ・介護負担の軽減。
- ・総合病院がほしい。
- ・駐車場が少ない。
- ・キャンプ場を設置して欲しい。
- ・公園が少ない。
- ・海で遊べるもの。大人も楽しめるレジャー。
- ・eスポーツの大会を伊予市でする。
- ・子育て世代が家を建てやすい地域や方法。
- ・住宅の建てやすさ。
- ・市街化調整区域の取りやめ。

明日からでもできること

- ・LINEアプリ。
- ・やりがい→生きがい。高齢者も役割があれば生き生き過ごせる。
- ・シルバー人材センターの活用。
- ・タクシーチケットの割引券。

2026年までにできること

- ・小児科をつくる。
- ・夜の電車が来ない。
- ・キャンプ場の開設。
- ・『コミュニティバス』の見直し
- ・海で遊べる施設（夏だけでも!）

2030年に達成すること

- ・新幹線
- ・介護の軽減
- ・地域の商店街の活気を戻そう。
- ・大型ショッピングモール、アウトレット。
- ・総合病院（救急病院）

7 グループ



コンパクトシティ化について、エネルギーの自立化や多様なターゲットがありますが、取り組むべき目標だと思います。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

あらゆる世代に優しいまち

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・地域住民への声かけ
- ・となり近所に声を掛けます。
- ・環境整備（道、公園など）
- ・私設図書館または書籍の寄付（考え中）
- ・近所にどんな人が住んでいるのかを知る。
- ・施設計画に際し、専門的アドバイス。
- ・互敬精神の醸成
- ・働きやすい職場を作ります。



わたしのコミュニティで取り組めること

- ・近所の人たちとのつながり、町内会。
- ・地域の人同士が集まりやすい。顔を合わせる機会が多い。
- ・子どもが困ったときに頼れる場所。
- ・子どもの集まる場面、場所づくり。
- ・支える人を支えることのできる場所。
- ・老後になっても誰かのボランティアが出来る様に。
- ・認知症の方が安心して暮らせる町。
- ・知名度。

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・公営住宅を造る。
- ・空家利用。
- ・公園を増やす。
- ・少子高齢化、子育て支援対策の併行政。
- ・子育ての環境づくり。児童公園、医療体制。
- ・若い子どものいる家庭に給付金を。
- ・授業料無償化。
- ・子どものスポーツセンター無料。
- ・子どもが遊べる場所→大きな体育館を造る。学生の体育祭、スポーツの大会、イベントの開催など。
- ・医療、みらい館。
- ・市立病院がない。救急に時間がかかる。
- ・交通機関の移動間の延長。
- ・移動手段の工夫。
- ・コンパクトシティ化。
- ・市民参加、協働の文化活動の推進。
- ・市民活動の中間支援。市民の声を届ける。
- ・Uターン、Jターンする学生を増やす。奨学金一部負担など。
- ・定住、移住政策。
- ・働き口も増やす。
- ・子どもがいても働ける場所。
- ・大学を造る。
- ・子どもたちの声が響く。

明日からでもできること

- ・地域行事の積極的参加。
- ・近所の人に会ったらあいさつをする。
- ・近所の方への挨拶
- ・義務教育における建築教育（環境、計画）
- ・仕事探し
- ・ゴミ拾い
- ・こういう会に参加していきます。
- ・子どもと孫の未来について話してみます。

2026年までにできること

- ・市民活動の中間支援組織をつくる。
- ・定住、移住促進。
- ・交通網の整備、活用。
- ・子育て環境の整備。
- ・医療体制を整える。

2030年に達成すること

- ・総合病院の設立（小児科）
- ・ゴミゼロにする。

昭和の時代にはゆいまーる、結いがありましたが、今はだいぶ希薄になってきていると感じています。やはりデジタルがいくら進んでも最後は人と人、そこが非常に大事です。

今、双海町翠地区を走っている自動運転バスを、コロナ禍で引きこもっている高齢者の動く集会所にしていけたらいいと思っています。子どもたちが笑顔で学校に行ける環境、現役世代が生きがいを持って働きに出て行ける環境、そして高齢者の方が伊予市に住んで良かった、終の住処にして良かったと思える取り組みをやらないとだめです。



市長のコメント

9 グループ

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標> 伊予市で医療の充実（市立病院設立）

SDGsの「すべての人に健康と福祉を」と、子育て環境を考えても今後、魅力ある伊予市にしていくために医療の充実を訴えていきたいと思います。



【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・ 人間力UP
- ・ 聞き耳を立てる。
- ・ 特別支援学級児に対する教育（我も人もの、の学びがあれば良かった）
- ・ 小中高生への地域教育



わたしのコミュニティで取り組めること

- ・ 近所同士の付き合い
- ・ コミュニティの方法の多様化
- ・ 若者が足を運ぶきっかけをつくる。
- ・ 伊予市の魅力を増やし人口増加→コミュニティの規模を大きくして。

伊予市全体で取り組むべきこと

- ★伊予市立病院を設置してほしい
- ・ 救急車搬送は松山まで。大洲市立病院、八幡浜市立病院のように。
- ・ 伊予市立病院が今、ない。不便。救急に対応できていない。
- ・ 救急車が到着するのにかなりの時間がかかる。
- ・ 救急車増台（老人が多くなり、いざという時足りません）
- ・ SDGs すべての人に健康と福祉を。
- ・ いざという時、松山まで病院に行くより伊予市内で看てもらえれば時間がかからずいいのでは。
- ・ どこからでも通院できる病院が必要。
- ・ 病院、医院の充実により子育てのし易い環境づくりを促す。
- ・ 出産後、保健師さんの協力が必要で困った。
- ・ 発言しやすい町づくり

明日からでもできること

- ・ 人材育成
- ・ 公共の車で人だけではなく荷物も運ぶ。色々利用できるようにする。

2026年までにできること

2030年に達成すること

確かに伊予市に救急搬送ができる病院があったらいいというのはおっしゃる通りだと思います。

医療の充実ということでは来年の5月に小児科を開設することにしました。

また今後は、家から松山の主治医の先生にオンラインで見てもらい、お薬を送ってもらうような遠隔地医療の時代が来ます。そのためにはガラケー、3Gではだめで4G、5G対応のスマホが必要になります。中山地域事務所や市役所でもスマホ教室を始めており、そこへも70歳以上の方が行ってくれています。まだまだこれからですが、そういったモチベーションは作っていききたいと思います。



市長のコメント



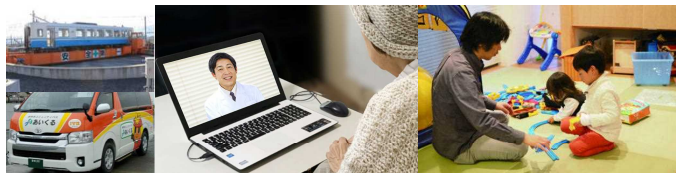
10 グループ



誰一人取り残さない伊予市のコミュニティは何のためにあるのか、それは人口3万人を維持するためのアプローチだと考えました。伊予市に住みたい人を増やすことが目標になると思います。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標> 伊予市に住みたい人を増やす

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・とにかく全員が明るくいること!!
- ・いじめの数を少なく。
- ・地域の祭りの周知。
- ・高齢者の現状の確認。
- ・自分の住む土地の強みを市民が自覚する。
- ・外出する。
- ・外出の動機の創出。



わたしのコミュニティで取り組めること

- ・子どもの学習にもつながるイベント。
- ・空き家などを活用して、誰でも集まりやすい場所を作る。100円でカップラーメンを食べながら2~3時間話せる、みたいな。
- ・高齢者から若い人の交流の場。

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・小児科をつくる。
- ・老人ホームの充実。
- ・企業誘致
- ・創業支援の充実
- ・起業しやすい環境?
- ・経済成長で他市に負けない。
- ・子育てし易さの発信。
- ・教育環境を充実させる。
- ・教育水準の向上。
- ・ジェンダー的問題を考えた小中学校の設計。
- ・人口が少ない地域の交通の改善。
- ・若い世代の方が住みやすくなるよう家賃の補助がほしい。
- ・松山高校(中学)のweb受講化(一部でも)。
- ・保育所の充実。
- ・働き場所を増やす。

明日からでもできること

- ・あいさつを活発に!
- ・子どもへの声かけを周りの大人が。
- ・デジタル回覧板
- ・魅力を発信する力を鍛える。

2026年までにできること

- ・小中学生にビジネスコンテスト
- ・小児科医を誘致
- ・色々な面での資金の援助

2030年に達成すること

- ・道路の補修、修繕
- ・創業基金をつくる。
- ・教育制度の規制緩和を申請。



人口を維持していくためには、あいさつが大事だとの提案をいただきました。

伊予市は椎川忍先生が代表を務める地域活性化センター(東京)と協定を結び、地域づくりの中核となる人材の育成に取り組んでいます。私が思う人材とはまず笑顔とあいさつです。市職員が笑顔とあいさつができるようになったら、おのずとコミュニティ能力が高まり、他の自治体とも人脈が繋がって、大きな大きな人財となるのではないかと考えています。

そこから始めよう、難しいことを考えずに、まずは理屈、屁理屈ではなく、それを背中で見せてくれと職員にはお願いしています。



市長のコメント

3 グループ



人口増加はできないにしても極力減らさないような方法を中心におき、子育てしやすい、住みよいまちをテーマに検討しました。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

子育てしやすい、住みよいまち

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・環境保全
- ・災害がめっきり少ない町。
- ・地産地消

わたしのコミュニティで取り組めること

- ・近所同士の付き合い
- ・活動の場を設ける。
- ・交通事故ゼロの町。車が譲り合う町。
- ・お互いを気遣う町を目指そう。
- ・若者、学生の交流の場を設ける。
- ・交流の機会がない。
- ・違う世代と、交流する機会がない。



伊予市全体で取り組むべきこと

- ・地産地消の給食。
- ・福祉の充実。子育て、介護。
- ・移住支援。・企業の誘致。
- ・商店街で店が少なくなってさみしい。
- ・伊予市ならではの地域教育の提案。
- ・特産物収穫会
- ・遊ぶ場所が町の真ん中に少ない。
- ・公園が少ない。
- ・空き家、空き地を利用したワークショップの開催。例：小さな広場や小屋など作ってみる（木工体験みたいな感じ）。⇒この行いを SNS で発信。少しでも多くの人に「伊予市でなんかおもしろいことしてるなー」と思って、伊予市を訪れるきっかけになってくれたら嬉しい。参加者も楽しいと思う。※伊予市の豊かできれいな自然を PR することにもつながりそう。
- ・空き家を減らす。

明日からでもできること

- (環境保全)
- ・観光地が少ない。
 - ・夕日(空)。きれいに見える!!
 - ・私の浜(海)に沈む夕陽。
 - ・海関係はどれもきれい(夕日とか)。
 - ・働く場所がある。豊かな自然がある。
 - ・山、海があり自然が豊か。
 - ・高い建物が少ない。・日光が通りやすい。
 - ・星がよく見える。・自然がいっぱい。
 - ・都会とは違いゆっくりとした環境。
 - ・海がキレイ。・お魚おいしい。
 - ・おいしい魚が多いが食べ方がわからない。
 - ・くだものおいしい。
 - ・山の幸、海の幸、食べ物が豊富。

2026年までにできること

- ・病院がない。小児科ゼロ。
- ・地産地消の給食。
- ・他世代が交流する場を設ける。
- ・移住支援。
- ・空き家活用。
- ・公園の設置。

2030年に達成すること

- ・医療費を高校3年生まで無償化。
- ・企業誘致(農地法の改正)
- ・人口30,000人の達成

4 グループ



海岸清掃などのイベントに参加して、それを広報や番組で取り上げてもらい、最終的に地域の活性化につなげたい。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

世代を越えて、生き生きと生活できる場所を形成する

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・ゴミを捨てない、拾う。
- ・交通マナーを守る。
お年寄りに優しく。
- ・生活マナーを守る。
- ・お互いに助け合う。
- ・地産地消
- ・定期検診を受ける。



わたしのコミュニティで取り組めること

- ・引きこもりのヤング世代の減少。
- ・ラジオ体操をみんなでする。
- ・見守り隊を増やす。
- ・体験農業、漁業をする。
- ・地域の祭事を継承させる。
- ・子育てしやすい環境をつくる。

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・昔の建物を保全。
- ・障害児（者）の暮らせる地域づくり。
- ・産直市を増やす。充実化→持続を目指す。
- ・医療費の軽減。
- ・市民ミュージカルや市民演奏会の公演を子どもと一緒に。
- ・少年少女合唱団の活動や、音楽への取り組み。
- ・海外の人と文化的な交流。
- ・コミュニティバスの自動運転化
- ・マリンスポーツを充実させる。

明日からでもできること

- (環境保全)
- ・ゴミを捨てない、拾う。
 - ・交通マナーを守る。
 - ・生活マナーを守る。
 - ・地産地消
 - ・私は無理なのですが、自給自足を目指してみたいなあと思っております。

2026年までにできること

- ・地域ごとのイベントを増やす。
- ・温かいコミュニティを形成する。

2030年に達成すること

- ・医療費の軽減。
- ・コミュニティバスの自動運転化。

【3グループ】

昨年度、伊予市は街の幸福度ランキングで全国2位になりましたが、私は「どこが？なぜ？」と思いました。ある企業のアンケート結果による順位ですが、2位を本物にするため、市役所には懸垂幕を掲示し、職員とともに様々な取り組みを進めています。

これからの時代は子どもに親の背中を見せ、自分が子どもの頃はこうだったと伝えることが大事なのだと思っております。ここにいる方は皆さん、リーダーになれる方ばかりです。私は職員に背中を見せて動いているつもりです。即現場、即対応、動けば変わるというスローガンは平成17年に市議員になったときから変わっていません。常日頃から人との付き合いは大事だと思っています。

【4グループ】

今、翠小学校の前を走っている自動運転バスはフランス製で本体価格が3,000万円と聞いています。自動運転と言っても今の法律では乗務員は乗っていないといけません。故障したときのことを考え、3台導入すると、運行に係る経費は5年間で5億円にもなるらしく、さすがに伊予市のお財布状態では難しい状況です。実証実験の結果にもよりますが、1台で運行させるためにどのくらいの予算が必要か試算しているところです。



市長のコメント

8 グループ



自分たち自身が伊予市の特色を知らないことも多かった
ので、まずは伊予市のことをよく知ることが大事だと考え
ました。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

特色発揮し、リピーターを増やす観光市

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・ 既にある伊予市の魅力を外部に発信。
- ・ 新しいモノだけでなく、今あるモノを活用していく。
- ・ 周りに知ってもらう!!!!

わたしのコミュニティで 取り組めること

- ・ 海も山も近い。自転車で行こうと思えばどこでも行ける。
- ・ サイクリングコース、レンタル自転車の活用。
- ・ 自分たちが伊予市のことをよく知る（好きになる）。
- ・ 地域の特産品を外国へ売る。
- ・ 外国人向け特産品。
- ・ 花栗（サレヤロマン）。世界にひとつしかない。
- ・ 伊予農が作ってるお米!!GAPをとってやる!
- ・ 誰もが参加しやすい地元のみかん狩り、竹の子掘り。
- ・ 森林公園、谷上山にもっと足をむける機会を作る。
- ・ 神社等の歴史を子どもの頃から学んでいく。

伊予市全体で 取り組むべきこと

- ・ 観光立市を目指す。
- ・ 観光を目玉に!外国人は田舎を好む。その辺をターゲットにしてはどうか?
- ・ 日本の原風景をアピール。
- ・ 地元にお金が落ちる仕組みづくりが必要。
- ・ 映画のロケ地にしてもらう。
- ・ ホテルがない(オシャレな)。
- ・ 特産品の開発。
- ・ 観光資源の開発と情報発信



明日からでもできること

- ・ 夏休みなどの長期休みに合わせてSNSに写真をアップするイベントを行う←これで優秀作品を決めて伊予市のポスターに使用するなどの商品を用意すると、参加人数が増えて1つ1つの質も上がるかも。
- ・ 空き家、空き地を利用したワークショップの開催。例：空き家の修理や空き地に小さな広場や小屋を作ってみる⇒それをYouTubeで動画配信したりInstagram、Twitter、FacebookなどのSNSで伊予市でこんなことをしてるよーと情報発信。伊予市で少し変わったおもしろいことをしてるんだなと、少しでも伊予市に興味を持ってくれと嬉しい。参加者も楽しいと思う。

2026年までにできること

- ・ 春、夏の料金のかかるイベントの考案。
- ・ 外国向けSNS
- ・ 外国人の体験。外国人に空き家を貸し出し。
- ・ たけのこ掘り体験。
- ・ 継続性を求めた収益化。

2030年に達成すること

- ・ 通訳者が必要(補助)。
- ・ 観光市を目指す。

ふたみシーサイド公園の指定管理者であるフジ・トラベル・サービスには「今はリニューアル効果もあり多くのお客さんに来てもらっているが、このままでは3年後には来てくれなくなる。本業(旅行業)のノウハウを生かし、旧伊予市、中山町、双海町を周遊できるツアーなども企画しながら運営にあたってほしい。」と伝えています。

J R下灘駅に目を向けても、全国各地から足を運んでもらってもお金を落としてもらうシステムがありません。例えばカプセルトイ自販機を置くなど、小さいことから始めようと考えています。

市長のコメント



1

グループ



津波などの被害に遭った時にはアナログの方が重要になってくるので、デジタルと併せて融合にしました。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

便利な暮らし且つデジタルとアナログの融合

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・伊予市の公式アカウントの登録

わたしのコミュニティで取り組めること

- ・デジタル塾
- ・デジタル回覧板
- ・防災無線のデジタル配信。ますますいよに揭示。
- ・デジタルに心配な人のための教室
- ・Wi-Fi環境の整備

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・VRを使って町探検。仮想博物館。
- ・駅の電動化。Suicaを利用可能に。
- ・バスや電車の便数が少ない。
- ・独居老人の安否確認ができる端末機の支給。
- ・アプリでタクシー配車。遊休タクシーの活用。
- ・車免許返納者は公共バスを割引。
- ・災害時における緊急通報システムの構築（個別受信機を含む）
- ・歩車分離信号の歩行者認識切替（人がいないのに待ち時間が長い）
- ・役所までのロープウェイの設置。

明日からでもできること

- ・伊予市の公式アカウントの登録

2026年までにできること

- ・VRを使って町探検。仮想博物館。
- ・自動田植え機、稲刈り機、運転車
- ・テレビのリモコンの音声等で発信できると助かる。
- ・イベント開催時に市民の携帯に通知がいく。
- ・デジタル塾
- ・行政手続きの電子化。行政の予約混雑状況の可視化。
- ・市民の意見のタイムリーな可視化。
- ・高齢者向け情報配信サービス。
- ・企業等との行政情報の共有。

2030年に達成すること

- ・監視カメラ等による防犯、安否確認を行う。



今、防犯カメラとブルーライトがセットになっているものが1基6万円ほどであるので、今後、様々な場所に設置し、安全に安心して暮らせる環境づくりに努めていきたいと思っています。

また、中山地域、双海地域のデマンドタクシーは伊予地域（旧伊予市）まで来れない上に、伊予地域のタクシー会社がデマンドタクシーの運営に関わることもできません。中山・双海地域のタクシー会社の経営を守るためですが、システムを変更することなく、中山・双海地域の方々が、伊予地域の病院に来ることができるか、知恵を絞っているところです。常日頃から「金がないなら知恵を出せ、知恵がないなら汗をかけ」というのが私のスタンスです。



市長のコメント

2 グループ

- 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

アナログとデジタルの融合推進 ～省力化で生まれた原資を手厚いサービスへ～

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・インスタグラムの活用。美しい伊予市の風景を発信。
- ・アプリのよりよい活用。感性の高い高校生（女子）による発信促進。
- ・YouTubeの伊予市の紹介。
- ・デジタルかわら版の作成⇒いつでもどこでも見る事ができる。
- ・フェイスブックの活用。人とのふれあいアップ。世代間の交流。
- ・LINEを活用する。
- ・マイナンバーカードの作成。

わたしのコミュニティで取り組めること

- ・中学生、高校生の参加促進。
- ・アプリを用いて健康や安否の確認。
- ・オンライン通話（zoomなど）を活用した繋がり構築。独り暮らしの方も特にターゲットにしたい。
- ・老人（シニア）へのアプリ活用フォロー。同居の家族のフォロー。マニュアルの充実。
- ・地域でお困りごと共有リストを作る。
- ・無人販売機を使う。

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・人口減少、少子高齢化、中山間部の過疎化、空き家の増加、行政の厳しい財政状況…
- ・SNSを用いた情報共有
- ・アプリ等が苦手な方への対応→？
- ・有線放送 ・市民への周知。
- ・地域の防犯アプリ
- ・学校用連絡アプリ
- ・回覧資料の電子配信。
- ・行政のかかばる目標の達成がスマホで見える化する。
- ・手続きの簡略化。 ・リモートで仕事。
- ・HPを見やすく！簡単に情報を拾える。
- ・特別な操作をしなくて伊予市の情報が見られる。
- ・図書館に自由に使えるパソコンを設置。
- ・高齢者世帯にタブレットを配布。

明日からでもできること

- ・図書館に自由に使えるパソコン設置。
- ・アプリの使用。
- ・デジタルで何を解決するかを議論すべき。
- ・市民への周知。
- ・ハートフルな市民サービス。

2026年までにできること

- ・YouTubeを開設。ネットをもっと活用していく。
- ・Wi-Fi環境の充実。
- ・マイナンバーカードの普及率100%。
- ・情報共有をしやすくする。
- ・広報関連はデジタル化に移行する。
- ・金額の問題。通信。
- ・情報共有の高速化。
- ・ハートフルな市民サービス。

2030年に達成すること

- ・単純な事務作業の機械化（RPAなど）。役所が率先して行うと効果的？
- ・デジタルは若い人達だけではない。どんな年代でも活用。
- ・ハートフルな市民サービス。

2030年には単純な事務などは機械などで省力化して、より一層ハートフルな市民サービスを私たちに届けていただければと考えています。



デジタル化に関しては、我々が若い皆さん方に引っ張られながらも着実に進めています。市民の皆さんがデジタル化の進展にしっかりと対応できるよう、伊予市の事情に見合ったデジタルトランスフォーメーションを構築していきたいと思っています。

マイナンバーカードの取得率100%は私の悲願です。

市長のコメント



6 グループ



生活の中でもっと手軽にデジタルを使えるようにない、デジタル技術を生活に取り込むことを目標にしています。

● 2030年になりたい伊予市の未来 <目標>

皆がデジタル技術を使いこなせる

【イメージ写真】



わたし自身ができること

- ・アプリ、SNSでの情報発信。Twitter、Instagram等。
- ・若い人に伊予市が発信する物を拡散。
- ・デジタル自体に興味を持つ。



わたしのコミュニティで取り組めること

- ・自然が豊か
⇒アウトドアブームに乗る。
- ・発信（動画など）
↑
他の市にない（キャンプなど）、フラダンスのイベント
⇒若い子

伊予市全体で取り組むべきこと

- ・集会所でデジタル教育。定期的に。
- ・デジタルの知識不足、高齢者等への支援（デジタル）。スマホ等を使うことのできない人を減らす。場所、人の提供。
- ・デジタルの使い方を学んでいただく⇒教室、小売店など。子どもに教えてもらうのが多い。SNSを使いたい気持ち。
- ・使いやすいサービスを作る。
- ・月々定額でスマホ等の貸し出し。デジタル化へのハードルを下げる。
- ・子どもにタブレット学習。
- ・動画で伊予市独自の情報を届ける。キャンプ、フラダンス。若年層から。
- ・他の市にない内容を発信。
- ・内容、企業情報。観光に特化しない方がいい。
- ・効率化をはかるため、市サービスをデジタルへ。
- ・広報に呼びかけを入れる。
- ・空き家、空き地を利用した催し物。ワークショップ。⇒SNS、YouTubeなどで配信⇒興味を持ってもらう。
- ・無人バスはいいと思う。

明日からでもできること

- ・若い人口、拡散または発信をする。
- ・デジタル自体に興味を持つ。

2026年までにできること

- ・集会所でデジタル教室。定期的に。
- ・デジタルの知識が不足している高齢者等へ定期的にイベントや教室を開く。SNSを教えてくれる場所、人の提供。スマホやインターネットを使えない人を減らす。
- ・YouTube、動画配信。LINE、SNSの教室（電子機器等が苦手な方へ）。

2030年に達成すること

- ・市内ネットワークがどこでも高速でつながるようにすることが必要。
- ・デジタルについて理解する。
- ・オプションとしてのデジタル利用。
- ・オンライン診療
- ・スマート家電
- ・対面の現場とオンラインを中継でつなぐ。対面が好ましい、オンラインが好ましいではなく、それぞれが好ましい方法を選択できるように。
- ・未来を向くならDXに取り組むべきだと思うが…。
- ・ガラケー⇒スマホ⇒知識がない⇒やる人を増やす。

今年、元オリンピック選手の佐伯美香さんが五色姫海浜公園でビーチバレーをやっています。フラダンスとビーチスポーツをコラボレーションした取組を毎年やりたいという話も聞いています。光回線は今年度も含め3カ年で全てのエリアに引きまします。



市長のコメント

■ 第1テーマ『誰一人取り残さない伊予市のコミュニティ』

○コミュニティづくり

- ・地域コミュニティの再興
- ・令和スタイルのご近所付き合い（対面、オンライン、会話、文通、チャット等）。様々なスタイルを選んで交流ができるように。
- ・世代のギャップの壁を取り壊して、お互いがひざを突き合わせられるコミュニケーション。
- ・地域活動が低下し、協働が機能していない。
- ・関係人口を増やす。
- ・モーニングの時間に集まれる場所→夕方忙しい主婦
- ・カフェが増えてる → コミュニティが増えてる → もっとカフェがほしい！

○地域ごとの課題解決

- ・都心部と山間部の情報格差。デジタル化推進。
- ・災害に強い町。山間部。
- ・スモールシティ化と過疎地の再構築。
- ・市中心部と旧二町など郊外部の問題点の相違。

○交通対策

- ・デマンド（バス、タクシー）乗り入れ
- ・伊予鉄をもう少し便利に。

○SDGs

- ・SDGs

○様々な支援

- ・デジタル化についてこれない方々がいるので、デジタル教室やイベントを開いた方がいい。
- ・買い物の不便を無くす。地域にスーパー類が無いことに気づいた。
- ・買い物難民支援
- ・DVを未然に防いで欲しい（予備知識や人間関係）。
- ・生活困窮者に対するいじめを十分考えて欲しい。
- ・通学用の補助金
- ・コミュニティスクール（学校、学校外施設、オンラインをフル活用し大人と子供がニーズに応じた学びと交流を！）←学校に行きづらい子のために図書館を開放。定年退職した元教師、学生ボランティアが勉強等を教える。家から出られない子にはzoomを活用。

○働く環境づくり

- ・働き口を増やす。
- ・子育てをしながら働ける（リモート）。
- ・企業の受け入れ。
- ・郵便局跡地利用。文化会館との一体化施設。

○環境整備

- ・公園を増やす。
- ・街灯の増加
- ・田畑の整理

■ 第2テーマ『人に自慢したくなる伊予市の姿』

○伊予市の暮らし

- ・地域ですべて生活用品がそろう。
- ・スーパーが多い。営業時間が長い。
- ・地域のお年寄りが子育てを助ける。
- ・外で遊んでいる子をそこそこ見かける。
- ・給食費無料、医療費無料
- ・税金や物価の軽減。
- ・税金が安い。
- ・土地の値段が安い。
- ・人口密度が低いから音楽家向けの物件も低価でつくれる。
- ・男女参画を考慮した生活の推進。
- ・公共施設がきれい（目標）。
- ・保育施設の充実性。
- ・子育てサービス
- ・子育てしやすい（目標）
- ・回線がいい（理想）。
- ・学校が遠すぎて困った（子ども）。

○伊予市民の人柄

- ・前向きの人が多い。
- ・楽しいことを考える人が多い。
- ・人情がある。
- ・自分の責任で前に向かって行動する仲間がいる。
- ・人柄が良い所。

○交通

- ・交通の便がいい（理想）
- ・高速道路のICがある。
- ・最近、北伊予駅がキレイになった。
- ・分散?集中（人口を集める）

○農業

- ・農業の法人化で仕事をつくる（お年寄り、子育て支援）。生産→加工→販売
- ・経済的自立を目指して農業等の日々の努力。

○歴史・文化・観光

- ・「伊予」という名前が使われている唯一の市。
- ・愛媛はもともと伊予の国。
- ・「伊予っていいよね」というダジャレが言える。
- ・愛媛の起源となった地域。古い歴史的な寺、神社、遺跡が多い。
- ・ただの心霊スポットじゃない！イメージを払拭。日本最大級のため池、大谷池ができるまでの熱い物語。周辺の豊かな自然。
- ・昔の街並み、昔の建物（古民家）
- ・工芸品の席、空いています！（美術品のブルーオーシャン）
- ・伊予稲荷神社
- ・産業遺産の構築。
- ・方言がちょっとかわいいと思う。
- ・フォトスポットが多い。
- ・風景写真の投稿。
- ・おしゃれなカフェが多い。
- ・道の駅
- ・観光地として発展。
- ・アクティビティが安く楽しい（目標）
- ・マリンスポーツができたらなあ…
- ・一日中遊べる。
- ・遊べる場所が少ない。
- ・地域の祭事の多さ。
- ・中山栗。中山発祥の栗もある。高齢化。害虫・病気に弱い。
- ・伊予彩まつりの花火大会

○自然

- ・大谷池の野鳥、鴨、冬鳥、越冬する鳥。
- ・森林公園の四季の花
- ・森林公園でアスレチック、キャンプ、バーベキューを楽しむ。
- ・谷上山
- ・五色浜
- ・五色浜は釣りスポットとして有名。
- ・釣りスポットの開拓
- ・福岡農園
- ・神社、寺、秦皇山キャンプ場を見直す。
- ・水を張っている時の田んぼに生き物がすごくいる。

- ・多種多様な生き物（虫～魚）
- ・美しい自然
- ・港の保護、活用
- ・空気がきれい、海が近い、きれい。
- ・夜は星が多く見られる。
- ・台風がだいたい逸れる。
- ・ハトの鳴き声で目が覚める
- ・菜の花畑と電車と海。これらが合わさった風景。
- ・夕陽が立ち止まる町。
- ・自然が豊かで食べ物が新鮮でおいしい事。
- ・山、海、街と遊ぶところがいっぱいある事。
- ・桜の名所がある。

■ 第3テーマ『デジタル時代の伊予市の暮らし』

○デジタルによる情報発信

- ・VRを取り入れた伊予市の博物館の設立（見所も発信）
- ・VRを使った町探検
- ・何かポイントをつくってもいい。
- ・「防災伊予市 伊予市役所です」放送が聞こえにくい。「ますますいよし」に掲示したらよい。
→防災無線が聞こえない事が多くあるので、デジタル配信をしてほしい。
- ・市民の意見が掲示板に瞬時に流れる。Twitter伊予市版。
- ・デジタル回覧板
- ・行政情報（データベース）を企業等へ情報提供。
- ・高齢者の方への配信サービス。
- ・新しいイベントが開催されたら、市民の携帯に通知が届いて、全員が知れるようにする。
- ・伊予市の観光のみでなく企業の情報も。

○行政手続きを便利に

- ・行政手続き（各種申請、交付金受取等）を電子化することにより、利便性の向上を図る。
- ・窓口での手続きをネットで！（早い手続き、時間）
- ・市民の意見がすぐに市政に反映できるようにして、言葉に出したことが文字化されれば楽だなと思う。
- ・市役所の予約、混雑状況の可視化。

○デジタル化への対応支援

- ・お年寄りやデジタルが心配な人のための授業の開催。
- ・子どもはすぐデジタルに慣れる。塾とかもデジタルでできるのでは？
- ・デジタル知識→教える→簡単な場所。出来ないのが当たり前
- ・場所 市役所（休日）、文化センターなどの公共施設。集会所（定期的）。

○人と人とのつながり

- ・令和版井戸端会議（オンライン）。育児に不安を抱える人、学校に行きにくい子ども、障害を持っている人、LGBTQ、性的マイノリティの人、お隣さんにはいないかもしれない、同じ悩み、不安を持つ人をオンラインでマッチング、交流を図る。
- ・デジタル、デジタルではなく、人と人とのつながりをもっとしていかなきゃいけないのではないかな。
- ・人とコミュニケーションを残すべき。
- ・小さな子どもから高齢者まで、どんな人でも安心して暮らせる町。

○簡単に使える工夫

- ・お年寄りに寄り添うためにはテレビの活用が鍵となってくる。
- ・テレビのリモコンで助けを求める事が出来る。
- ・音声で認識できる機械の発明。
- ・図表を活用したわかりやすい操作方法の説明。
- ・簡単に使えるものがあれば。

○生活を便利に

- ・自動田植え機
- ・自動稲刈り機
- ・お手伝いロボット
- ・ショッピングモールをつくる。
- ・お金が必要（税収）
- ・ベーシックインカム
- ・仕事場所がある？種別は？
- ・企業誘致

○交通

- ・駅の電動化
- ・お昼に電車が全然来ない。
- ・Suicaを利用可能に！
- ・役所まで遠い→ロープウェイとかどうか？
- ・『あいくる』バスの便数が少ない。車免許返納者は公共バスを割引。
- ・遊休タクシーの活用
- ・アプリでタクシー配車
- ・ドライブスルーの増加
- ・自動運転車

○デジタル化について考えるべき

- ・すべて「ネット」というものではないけない。デジタル時代だけれど、今の方法でも充分ではないか。デジタルではない他の方法を考えなくてはならないのでは？
- ・デジタルを周知させるときはデジタルを使ってはならない。
- ・システムを考えるのは人間で。
- ・デジタルに全てを変えるのではなく、アナログも残していく必要もある。
- ・デジタルは方法であって課題設定が重要。